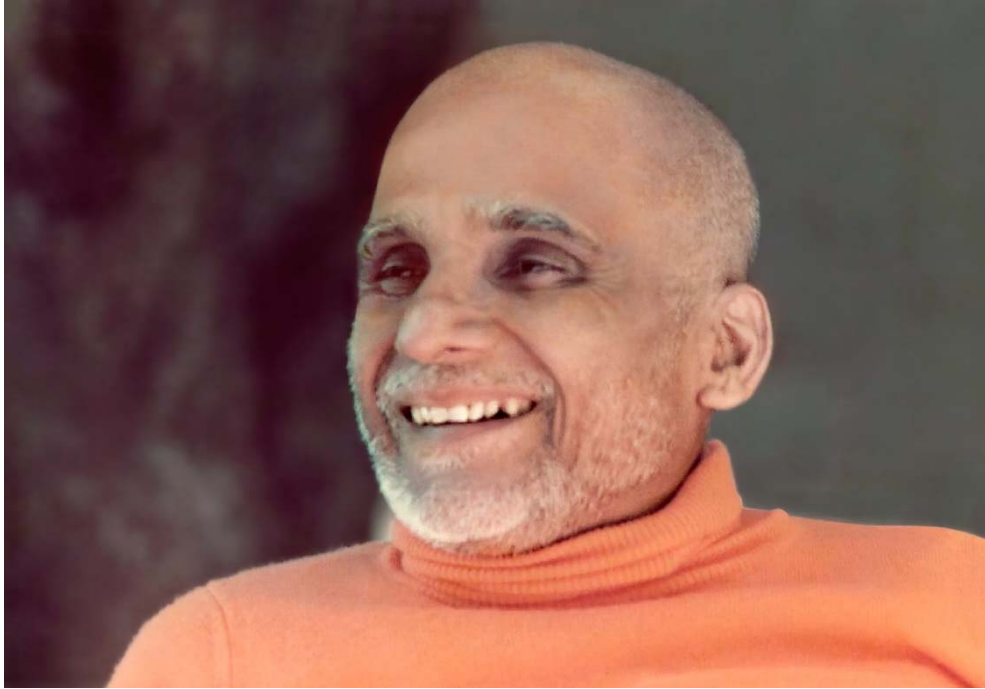


四つの義務

Four Kinds of Duty

2025/04/25 版



スワミ・クリシュナンダ 著

The Divine Life Society

Sivananda Ashram, Rishikesh, India

ウェブサイト： <http://www.swami-krishnananda.org>

他の和訳： <https://yogajbooks.wordpress.com/>

(1998年2月11日のダルシャンでの会話)

スワミジ：宇宙全体が活動している。動かず、じっとしている原子は一つもなく、あなたと宇宙全体は不可分の関係にある。よって、活発な宇宙の働きが、あなたを行動に駆り立てるのだ。これが、バガヴァッド・ギーターの教えだ。正しい行動もあれば、間違った行動もある。正しい行動とは、実際には行動ではなく、宇宙の目的に関与することだ。それが正しい行動であり、解放につながる行動だ。

まず、宇宙の目的が何であるかを知らなければならない。なぜ宇宙は活発なのか。なぜ宇宙は進化し、そしてまた、どの方向へと進化しているのか。宇宙が進化する、その方向へ、その方法で、その目的のために、完全に協力して行動するのだ。反対するのではなく。これもまた、バガヴァッド・ギーターの教えだ。あなたは働くのではなく、宇宙の活動に参加するのだ。「働く」とは、個として何かをすることだが、宇宙には、個が何かをするというものはない。宇宙は全てを内包しており、独立した行動は不可能なのだ。

どのように働くかは、あなた次第だ。第一に考えるべきことに、いわゆる衣食住というものがある。わかるかね？

訪問者：はい、わかります。

衣食住の三つが保証されるべきであり、これらが障害になってはいけない。もしかしたら、三年後にはお金がなくなるかもしれない、と思うようなことがあってはいけないのだ。そうすると、あなたの心は乱れる。「私には、常に衣食住を維持し、また必要に応じて医療を受けるための十分な資産がある」という確信を持っていなければならない。これが第一だ。

第二に、人間社会との関係という別の仕事もある。あなたは人間社会から孤立しているのではない。兄弟姉妹に何らかの義務がある。「私が何かをしてあげましょう」と押し付ける必要はない。あなたが他の人々の役に立てる好機が生じたら、思いやりのある方法で、善意から社会に貢献すればよいのだ。私が言っているのは、世界全体としての社会ではない。あなたの身近な地域のことだ。

義務には四つの種類がある。先日も別の訪問者に話した。自分自身の健康を保つこと、これが第一の義務だ。病気にならないようにしなくてはならない。社会と、思いやりのある、協力的な関係を維持すること、これが第二の義務だ。自然の営みと調和を保つこ

と、これが第三の義務だ。自然の法則に反することをしてはいけない。第四の義務は、宇宙の創造主に対する義務だ。最後の義務が、最も上位の義務になる。神が喜べば、自然も喜ぶ。自然が喜べば、社会も喜ぶ。社会が喜べば、あなたも喜ぶ。しかし、一気に最も高次のレベルに到達することはできない。低いレベルから高いレベルへと、段階的に進む必要がある。

つまり、あなたの質問に対する答えとして言えることは、私たちは人間として、国民として、自然の一部として、そして^{spark of God}神の表れとしての義務を果たすための仕事をすべきだ。これらすべての側面において、義務がある。これらの義務を果たすことで、統合された人間になる。ある意味、あなたは超人の状態へと向かっているのだ。これら四つの側面が統合できている人は、超人になる道を歩んでいる。そのような人をヨーギと呼べるかもしれない。静かに座って、目を閉じ、呼吸法をするのがヨーギではない。これらは低い部類のものだ。あなたは、自身を含む、すべてと調和していなければならない。

別の訪問者：どのように私たちの生活において…

いわゆる「（自由意志による）選択」というものは、あなたが持って生まれてきた、前世からの潜在的影響力によって条件づけられている。その影響力のために、あなたは生き方を選び、特定の仕事をし、喜びと苦しみを経験するのだ。偶然に何かを経験することはない。宇宙には偉大な正義がある。この世界に無秩序な行動というものは起こらない。あなたが人生で経験しているすべてのこと、つまり、願望、物の考え方、喜び、悲しみ、さらには寿命さえも、あなたが持って生まれてきた、過去生におけるあなたの思考と行為の程度とその影響力によって決まっている。しかし、死の瞬間に意識が無くなるため、その影響力を知ることはできない。前世でどのようなことを考えたのか、今のあなたには分からないのだ。すべては宇宙の目的によって決定される。あなたが今からリシケシの町へ歩いて行ったとしても、それはすでに決まっているのだ。ラクシュマンジュラに行かずにリシケシに行く。それも、あなたが生まれる前から決まっていることだ。この真実を知っていれば、この世界のどのようなことにも悩まされなくなるだろう。

別の訪問者：私は、内側のある一点に心を集中させようとしています。

スワミジ：どの点だね？

訪問者：物理的な点ではないのですが、内にある点で、その特性に集中しようとしています。

スワミジ：内にあったとしても、肉体の中にあるのであれば、物理的なものになる。その一点とはどのようなものかね？

訪問者：遍在するものです。遍在するものに集中したいのです。

スワミジ：いや、遍在するものは点ではない。違うかね？点とは、空間に位置するものであり、遍在するものは、空間に位置するものではない。

訪問者：スワミジのおっしゃる通り、遍在するものは空間に位置していません。

スワミジ：よろしい。では、どのように遍在するものを心で考えるのかね？

訪問者：心で考えようとはしません。心で考えると、心の制約を受けることになるからです。

スワミジ：自分が遍在するものになるように、瞑想中に自己を広げていくのかね？

訪問者：それを試みているのだと思います。

スワミジ：その方法を誰から教わったのかね？

訪問者：時間をかけて、自分で学びました。

スワミジ：そのような瞑想を毎日何分実践しているのかね？

訪問者：朝に一度行い、そしてまた寝る前にこのような瞑想を行っています。そのような意識を持って眠りにつこうとします。

スワミジ：この瞑想を行う目的は理解しているかね？

訪問者：はい、スワミジ。絶対なるものを実現するためです。

スワミジ：マックス・プランクの「点」について知っているかね？

訪問者：はい、スワミジ。

スワミジ：宇宙はかつて一つの点だった。宇宙全体が、ピリオドのような小さな点に包含されていた。文章の最後にピリオドを打つが、それはとても小さい。その昔、宇宙はそのような小さなものであったというのだ。科学者がビッグバンと呼ぶもの以前のことだ。実際にはビッグバンというものはなかった。私たちがそう呼んでいるだけだ。「バン」とは大きな音を意味するが、その時、その音を聞く者はいなかった。耳も空間もなかったのだから、音はありえない。したがって、「バン」というのは適切な表現ではない。

しかし、人間は人間としてしか考えることができない。この宇宙が擁するすべての栄光、天国や地獄、そして無限に広がる次元界、すなわち森羅万象のすべてが、その小さな点の中にあっただ。そのような思考をするとき、あなたの心はどうなるだろうか。

訪問者：通常の限界を超えるまで、意識が広がると思います。

スワミジ：それ以上のことが起きる。あなたの人格全体が、それに耐えられなくなる。その時、あなたは、自分自身に耐えられなくなる。あなたは、その点と一体となるのだ。今のあなたは、身長が何センチで、胴回りが何センチの人間だと考えているだろうが、本当はそうではない。その点にセンチやインチは存在しない。無次元の点だからだ。空間がなかったのだから無次元なのだ。空間がなければ次元は存在しない。その点は、人間には想像もできないものだ。このようなことを聞くと恐怖心を抱かせるが、偉大な真実はすべて畏怖の念をいだかせるものだ。

よろしい。あとは、好きなように瞑想しなさい。偉大な真実について話したが、今話したことを心に留めておくことができれば、今後書物から学ぶ必要はなくなる。あなたは経験豊富な物理学者なのだから、これ以上の説明は必要ないだろう。今話した点、無次元の点を忘れずにいなさい。

— OM —